

ご近所のお医者さん

□
724
□

うめだ駅前
アイクリニック院長

増田明子さん

＝大阪市北区

その見え方、実は斜視かも

「最近、物が二重に見える」「片方の目だけ視線が合わない気がする」「何となく目の動きがおかしい気がする」

「こんな症状を感じたことはありませんか？もしかすると、それは「斜視」かもしれません。」

斜視とは、両目の視線がきちん

と合わず、片方の目が内側や外側、上や下に向いてしまう状態のことをいいます。

子どもの頃に見たことがある方もいれば、大人になってから症状に気付くケースもあります。実は、斜視は見た目

サインを見逃さない

だけの問題ではなく、放置すると視力の発達や立体的な見え方にも影響を及ぼすことがあるのです。

では、どのような見え方や症状が斜視のサインなのでしょうか。代表的なものはいくつか挙げてみます。

まず、「二重に見える」ことです。片方の目だけがずれていると、物が二重に見えることがあります。特に遠くのものや、明るい場所で見ると気付くやすいです。はっきり二重に見えるというよりも、「ピンぼけする」とか「遠くを見るとぼやける」なども斜視による症状の可能性があります。

次に、「片目だけ視線が合わない」状態です。例えば、片方の目だけが内側や外側に向いていると、真っすぐ前

を見ているつもりでも、実は目の位置がずれていることがあります。目の位置のずれにより片目だけ見える時間が長くなることで、奥行きが分かりにくくなってしまう、急須のお茶をうまく注げなかったり、ほんのわずかな段差で踏み外したりすることもあります。

ほかには、「目が疲れやすい」「頭痛や肩こりを感じる」などの症状も、斜視に伴う目の負担からくること

があります。子どもでは、「物を見ている時に目を細めたり、片目をつぶったりする」「仕草も見られることがあります。」

斜視の治療には、眼鏡や（光の進路を屈折させる）プリズム眼鏡、視能訓練、手術などがあり、年齢や原因に応じて選択されます。早期発見と適切な対応が大切です。

気になる症状があった場合は、まずはご近所のお医者さん（眼科のお医者さん）にご相談ください。

次に、「片目だけ視線が合わない」状態です。例えば、片方の目だけが内側や外側に向いていると、真っすぐ前

